博士論文執筆経験談

平成22年３月修了生　**金　蘭　美**

博士論文の執筆談の依頼があった時、私は引き受けるかどうか少し迷っていた。私の経験が本当に参考になるものなのか自信がなかったからだ。しかし、自分自身が在学中に先輩たちの経験談を聞いて刺激を受け、勇気づけられたことを思い出し、引き受けることにした。何をどう話せばいいものかとずいぶん悩んだあげく、自分自身の博士課程の３年間を振り返り、当時感じていたことや悩んでいたことを話すことにした。

博士課程３年間を振り返る

１年生：燃え尽き症候群

博士課程１年の時は、修士論文を提出した後体力や気力を消耗してしまい、何もしたくない一種の燃え尽き症候群の状態だった。何もしたくないというより、何をすればいいのか自分もちゃんと分かっていないという方が正しい。次の段階への方向性が定まらず、日々時間ばかりが過ぎていった。そんな時に、とりあえずとりかかったのは、先行研究や関連論文などを読むこと、修士論文の内容をまとめ投稿するということであった。

２年生：焦りつつ一歩ずつ

そうこうしているうちにあっという間に１年が過ぎ、２年生になった私は焦りまくっていた。学会誌には２回投稿したが、２回とも結果は「再投稿」。博士論文提出の条件であるレフリー付き論文２本にはほど遠い状況だった。しかし、参考文献の整理から少しずつ博士論文の全体像が見えるようになり、博士論文を３年で書くことを決心するようになる。それに合わせ、まずはレフリー付き論文２本をクリアするため『日本語教育』への投稿を一時断念し、韓国の学会への発表・投稿を試みた。しかし、心の中では『日本語教育』への投稿を諦めずにいた。その時に山形大学での日本語教育学会秋季大会で、知り合いの先生と偶然再会したことをきっかけに『日本語教育』への再投稿を決心した。査読の先生方の意見に納得できずにいた私に、先生はまずは査読者の意見を素直に受け止め、自分の論文を客観的に見ることを勧めて下さったのである。『日本語教育』への投稿を進めながら、データを収集・分析する作業を行った。

３年生：形にしていく

３年生になるとストレスがマックス状態に達した。ストレスを感じる時は近所の公園へ行ったり、カフェにパソコンを持って行って作業をしたりと場所を変えることで気分を変えて集中力を持たせた。また、４月にタイミング良く『日本語教育』誌への採用が決まり、俄然やる気が出てきたのもいい動機づけとなった。２年生の時から準備してきた実験を実施し、その結果を整理、分析をすることに夏休みのほとんどを費やした。実験のための被験者の確保や慣れない統計処理等に苦労はしたものの周りの助けもあり、順調に進めていくことができた。さらに、学会での発表や投稿も並行して行った。中間発表の時にあらかた章立てをしておいたので、それに合わせて、少しずつ書ける章から書き始めた。すべてがそろってから書くというのは案外に難しい。私の場合は書き下ろしではない章の執筆から始め、修正を加えながら、書いていった。それこそ、指導教員の先生のアドバイス通り、「勢い」で書いていったのである。執筆中にお茶の水女子大学の故佐々木嘉則先生がおっしゃった「大学院生の６つの『し練』」のすべて訪れてきた。６つの試練とは白髪、しわ、シミ、脂肪、視力（低下）、痺れで、「し」で始まるものである。本当に辛かったが、この６つの試練を乗り越えることで博士号を頂くことができたのである。

博士論文執筆へのアドバイス

・悩みを一人で抱え込まず、周りに相談すること

１年生の時、合同ゼミナールに参加し、みんなも私と同じく悩んでいることを知り、ほっとした反面、研究が進んでいる人の発表を見て刺激を受けた覚えがある。悩みがある時は、指導教員、先輩や後輩、仲間、周りの人にアドバイスを求めることをお勧めしたい。そうすることで自分が考えてもいなかった形で解決できたり、解決できなくても人に聞いてもらうだけで悩みが半減する場合もある。

・息抜きを忘れずに、ただし抜きすぎないように

集中して論文を書くために息抜きは非常に重要である。また、自分へのご褒美を忘れないでほしい。私は投稿や中間発表など、難しい関門を一つクリアするたびに仲間と温泉旅行に行った。人はご褒美が待っていると頑張れるものである。

・執筆は勢いで

博士論文の執筆において章立ては非常に大事だと思う。まずは章立てをし、書けそうなところから取りかかる。そもそも完璧な論文というのはないと思えば気持ちが楽になる。だからといって手抜きをしていいわけではない。もちろん今の自分にできる最善を尽くすことは基本中の基本である。博士論文はある研究の完成を意味するわけではないので、課題が残るのは当然である。そこからまた新しい研究テーマを見つけ、新しい可能性を見出していけばいいのである。

以上、私の博士論文の執筆経験と後輩のみなさんへのアドバイスをいくつか述べさせてもらったが、少しでも役に立つことを願いたい。